

◇研究主題

「生きる力」をはぐくむ授業づくり — 『読解力』を核とした授業を目指して—

1. 研究の経緯

(1) 昨年度の取組

昨年度、本校は県の「児童生徒の『活用力』向上モデル事業」推進校の指定を受け、これまで進めてきた「教科を中心とした授業改善」を一層深めるための学校研究に取り組んできた。研究を進めるにあたり、「活用力」をどうとらえるのかが年度当初の職員会議で話題となった。そこで、校内研修会の開催、先進校視察に取り組み、さらに研究推進委員会や職員会議での論議を重ねてきた。

その結果、生徒がこれまで学び、身につけてきた知識や技能を活かして課題を解決できることが、本校の研究主題である「生きる力」の一側面であり、この力を支える「思考力」「判断力」「表現力」等を「活用力」と考えた。そして、この「活用力」をはぐくむには、すべての教科で「読解力 (Reading Literacy)」を視点とした授業に取り組むことが有効であろうと考え、上記の研究主題を決定した。

具体的には、文部科学省が策定した「読解力向上に関する指導資料」の「(1)指導のねらい」に述べられている「7つの指導のねらい (能力)」をもとに授業を組み立てることに、全ての教科で取り組んだ。そのためには、「どの能力」を、「どの単元 (教材)」で育成できるのかを、教科担当者で共通したものを持つ必要がある。そこで、各教科で年間指導計画を基に「読解力」育成のための指導計画を作成し、授業に取り組んできた。が、年度末の研究推進委員会で、「『読解力 (活用力)』を向上させることで、錦城中学校としてどのような生徒を育てたいのかが曖昧である」ということが課題として指摘された。

(2) 今年度の取組

今年度も昨年度に引き続き、「読解力」を授業の核に据えて研究を進めることを年度当初の職員会議で確認した。研究推進委員会では、昨年度の課題をもとに、研究組織、ならびに研究構想図を見直し、「どのような生徒を育てたいのか」を明確にした。

研究を進めるにあたり、まず、教科として生徒にどのような力をつけたいのかを明確にするため、小松教育事務所の各指導主事の先生方にも来校いただき、教科部会を開催した。各教科で話されたことをもとに、今年度は「読解力7つの指導のねらい」の中でも特に、大項目(イ)「テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること」、ならびに(ウ)「様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること」に関わる活動に重点的に取り組むことを確認している。

具体的には、各教科で「自分の考えを文章等にまとめる」、「自分の考えを発表し、他の人

との意見の交流を行う」、「意見の交流をもとに、自分の考えをふり返る」といった活動を授業に積極的に取り入れることで、「読解力」の向上、ひいては「活用力」の向上につなげたい。

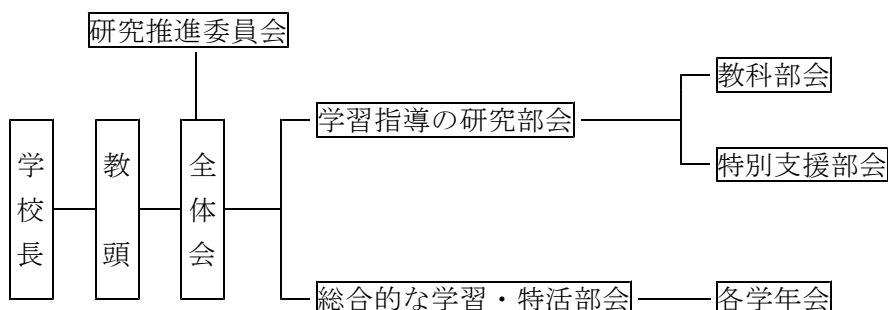
2. 研究のねらい

- ・各教科における基礎基本の定着を確実にすることで、生徒一人一人にわかる喜びを感じさせ、やる気の向上をはかるとともに、自信を持たせる。
- ・テキストの内容や形式などの「解釈」や「理解・評価」をすることで「読む力」を高める取組を各教科で工夫する。
- ・テキストの内容を「要約」「紹介」したり、自分の考えを書かせることで、「書く力」を高める取組を各教科で工夫する。
- ・自分の考えを発表したり、意見を交流することで、「コミュニケーションの力」を育てる取組を各教科で工夫する。
- ・「朝読書」の推進や「幅広い読み物」に触れる機会を工夫し、様々な文章や資料に触れる機会を設ける。
- ・「授業参観カード」や他教科の授業参観などを通して、教職員の授業改善を図る。

3. 研究の方法

- ・昨年度作成した『読解力』育成の具体例集 教科別指導計画』をもとに、授業に取り組み、必要があれば見直しを行う。
- ・「自分の考えを文章等にまとめる」、「自分の考えを発表し、他の人との意見の交流を行う」、「交流を基に、自分の考えをふり返る」といった活動を授業に取り入れる。
- ・各自1回は研究授業に取り組むこととし、研究授業の前には指導案検討会を、後には授業整理会を行う。
- ・指導案検討会、授業整理会は複数教科合同で行う。
- ・昨年度の全国・県基礎学力調査の結果分析を活用した授業を工夫する。
- ・生徒の「読解力」や「活用力」をみる課題などを取り入れ、通過率を把握する。

4. 研究組織



5. 各教科で育成を目指す力

国 語	<p>①文章の展開に即して内容を正確に読みとる力 【ア (ア)】</p> <p>②自分の考えを、根拠に明らかにして表現する力 【イ (ア)】</p> <p>③意見を交流することにより、自分の考えを広めたり、深めたりする力</p>
社 会	<p>読解力の7つの視点の「テキスト」を「資料」と置き換えるならば、従前の社会科の観点と活用力の関連性は高いといえる。資料を読み解き、自分の言葉でまとめ・発表していく場の設定を図り、互いの意見を肯定・批評・交流していくことに力点をおくことによって、教科として研究主題にせまられるものとする。よって、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み解き、文章として表現し発表する力 ・自分の意図を資料として作成し、発表する力 ・他者の発表を客観的に受け止め、自己の学習を高めていく力 <p>などを模索していきたい。</p>
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ・処理・活用・表現の力を身につけさせたいと考えている。 ・読解力の中では、 ①考える場面、その考えを発表する場面を日常化し、その表現力をきたえていく。 ②得た知識を活用できる教材を提示することが大切である。 ③グループ活動や課題研究を通して、プレゼンテーション能力を高める。 ④毎時間グループ活動を設けることで定着させる方法も考えられる。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的思考力を高めることを重要視する。 【イ (ア)】 ・自然をテキストに考えさせ、自分の意見をまとめて書かせる。 【イ (ア)】 ・本字のねらいに迫るための、思考し書かせる授業を目指す。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとの目標、目指すべき生徒像を明確にして指導する。 ・県の基礎学力調査をふまえた指導を行っている。読解力の7つの能力の中で、見直すべき項目がある。単元の目標と7つの読解力を照らし合わせ指導していく。 ・「言語活動の充実＝読解力の育成」につながる。
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いて音楽の諸要素を感じ取り、情景や場面を想像する能力。【アー (イ)】 ・曲を聴いて感じ取ったことを発表したり、文章に表現する能力。【ウー (イ)】
美 術	<p>自分の思いや考えを、様々な素材や技法中から選びとり、目に見えるかたちとして表現し、周囲に発表することができる力。</p>
保 体	<ul style="list-style-type: none"> ・データや資料から (をもとに)、めあてに合った考えを持てる。 ・データや資料から (をもとに)、めあてに合った考えを交流し、動くことのできる生徒の育成。
技 術	<p>①ウ (イ) 自分の感じたこと、考えたことを作品の中で表現する能力の育成。</p> <p>②人 (自分も含めて) を思いやる力をつけさせたい。人を喜ばせたり、助けたりできる作品作り。</p>
家 庭	<p>①ウの (ア) (イ)</p> <p>② (1) を実現するためには、特に班やそれを越えた仲間との協力が必要なので、お互いに補い高め合える能力。</p>